

1: 出席者

加藤^a・大西^b・千葉・能登・岡部・平林・須田^c・吉尾^c・合川^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- 今年度 VBL の COE として、内藤、合川に加え、須田、吉尾両氏が新たに採用された。(加藤)
- 今年度の核データの科研費は不採択となった。(加藤)
- 核反応データセンター会議(6/17-19)での報告書を昨年形式に沿って作成する予定である。(加藤)
- 印刷・製本された 2002 年度年次報告書に大きな印刷ミスが見つかり、再印刷することとなった。(能登)

3: 議論

- 再印刷する年次報告書について

以下の項目を追加することとした。

NRDF のコーディング数、EXFOR のコーディング数

NRDF のコーディングデータ数、EXFOR のコーディングデータ数

コーディングデータの内、著者から提供を受けたデータ数

IAEA に報告した内容の英語版

- 新規コードについて

以下のコードが新規に提案され、承認された。

TRNSN-PRBTY (Transition probability), DELTA-MAG-MMT (Error in Magnetic moment),

PLST-SCT (correction of expansion), DELTA-RESN-STRGTH (Error in Resonance strength),

RESN-STRGTH (Resonance strength), RESNS-STRGTH (Obs. Use RESN-STRGTH),

2JPNSUT (correction of expansion), INCASC-MODEL (Intranuclear cascade model)

以下のコードについても提案されたが、再検討することとなった。

DELTA-SIGMA (Obs. Use DELTA-TOT-XSECTN), SIGMA (Obs. Use TOT-XSECTN),

DELTA-TOT-XSECTN (Error in total cross section),

KXX / KZX / KXZ / KZZ (Kxx / zx / xz / zz component of polarization transfer),

DELTA-KXX / -KZX / -KXZ / -KZZ (Error in Kxx / zx / xz / zz component of polarization transfer)

- 著者の所属機関の追加情報について

従来の表記法(加速器の有無による分類)を踏襲する。

学部等の情報はコメントに書く。

(例) 2JPNKTO'I' /* 'I' DEPARTMENT OF PHYSICS */

4: 次回

2003 年 6 月 30 日 18:30~